

雑学 鳥獣植物戯詩

全24回

八木幹夫

第13回【鳥獣の鳴き方】

「ギョエテとはオレのことかとゲエテいい」（斎藤緑雨）と川柳にあるが、ジョージ、シエーン、ジョン、ジヨバンニヤン、ヨハネが同一の名前から派生している事実に気付いたのは語学を始めて大分たつてからだ。一つの名前が国によって発音の仕方が異なるのだ。

冬の早朝、鶏小屋の方でクックドウドウルドゥー（英語）と声がする。「とをてくう とをるもう とをるもう」と東雲に鶏を聞いたのは憂愁の詩人、萩原朔太郎。動物の声のオノマトペーも世界各国さまざまだ。コケコッコーとは日本典型の鶏鳴。

朔太郎の耳は海外詩を読んだ経験が元になったのだろう。「O」と「U」の音を合成し鶏の声とした。マンドリン奏者、朔太郎の面目躍如。ちなみに犬猫の声は「のをあある とをあある やわあ」（犬）「おわああ、ここの家の主人は病気です」（猫）と暗鬱に響いた。

少年時、動物好きが高じて獣医になった次兄のお陰で沢山の生き物に触れた。犬猫はもちろん、目白、鳩、山羊、兎、二十日鼠、亀。しかし季語の「亀鳴く」を耳にしたことは一度もない。万年を待つべきか。春よ来い。